



研究用ADHDテストプログラム
もぐらーず

Draft 3 版

2008年5月20日

**標準設定（標準値計測）
ガイドライン**

作成 大木昇 (有)のるぷろライトシステムズ
監修 安原昭博 安原こどもクリニック



NoruPro Light Systems.

まえがき

このガイドラインは、研究用ADHDテストプログラム もぐら一ず (*ADHD Test Program*) を使用して正常値を求めるためのガイドラインです。

このガイドラインをよくお読みになり、内容を理解された上で実際に標準値を求めるための計測を実施されますようお願いいたします。

プログラム本体についての取扱いは、もぐら一ずに付属されている説明書を参照して下さい。

1. 目的

もぐら一ずを使用して出された結果を比較検討するためには、測定環境・条件を同一にしておく必要があります。このガイドラインは、比較検討に必要な条件を一致させるために作成したものです。比較検討データとして使用するために、このガイドラインに準拠することをお勧めします。

ただし、研究として独自の条件で測定することを妨げるものではありません。

検査専用もぐら一ずでは、標準設定に沿った検査のみができるようになっています。

2. 検査環境

もぐら一ず検査は、**被験者1人と検査者1人で個室**で行います。

検査者は、必ず検査中、被験者が検査中断しないように見ている必要があります。

環境音はできるだけ少ないほうが、結果の精度が上がると考えられます。

もぐら一ず検査は、**集団での検査は推奨しません**。複数の被験者同士の干渉により、検査が妨げられる可能性があるためです。

3. 検査準備

検査前に、被験者情報を入力します。最低限の情報として、**年齢・性別・前日の睡眠時間**が必要です。初めて検査を行う被験者には、1分ほど実行させながら説明を行います。

10分間行うという説明は、いつまでやるかを気にする必要があるため、説明しておく必要があります。

「このようにめがねモグラとめがねなしモグラが出てきます。めがねモグラがでてきたらできるだけ早くキー（スペース）を押してください。この検査は10分間がんばって続けてください。」（低学年の子供の場合には、もう少しわかりやすい言葉で指示してください）

4. 測定条件

測定条件は、年代別に変える必要があります。

条件	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	成人	
A																	
B																	
C																	

条件A 5～12歳（小児標準1, 2, 3）

条件B 13～18歳（小児標準1, 4）

条件C 成人（成人標準1、2、3, 小児標準1）

小児標準1 -- 10分間 2×2 提示500ms 間隔1000ms 後半7分目から提示時間を100msずつ減らす。

小児標準2 -- 10分間 2×2 提示500ms 間隔1000ms

小児標準3 -- 6分間 2×2 提示500ms 間隔1000ms

小児標準4 -- 10分間 4×4 提示500ms 間隔1000ms 後半7分目から提示時間を100msずつ減らす。

成人標準1 -- 10分間 5×5 提示500ms 間隔1000ms 後半7分目から提示時間を100msずつ減らす。

成人標準2 -- 10分間 5×5 提示200ms 間隔1300ms

成人標準3 -- 6分間 5×5 提示200ms 間隔1300ms

検査中に上部にカウント情報が出ますが、カウント情報などに注意がいくような場合には、情報の表示をOFFにしておく設定にしてください。

キー押しは、必ず**利き手**で行ってください。

年齢範囲の境界では、上下2種の検査を実施しても構いませんが、その場合には最初に簡単な課題を行い、少なくとも10分の休憩をはさんで次の課題を実施してください。その場合には、年齢条件と異なる検査結果は参考値として使用してください。

5. 測定中の注意

測定中は、被験者が検査を持続するように注意してモニタする必要があります。

10分間注意が持続しない場合には、最低6分間の測定を行い中断します。この場合には、正常集団に含めないようにしてください。

6. 結果の評価

結果は、正答率、見逃し率(OE)、お手つき率(CE)、反応時間のばらつき(SD)、反応変動率(CV)を評価します。

反応時間の平均値は、個人差が大きいため評価の対象から外します。

最初の1分間は、不慣れの影響を除くために集計から外す場合があります。

正答率	注意性・衝動性を反映
見逃し率(OE)	注意性を反映
お手つき率(CE)	衝動性を反映
ばらつき(SD)	注意性を反映
反応変動率(CV)	注意性を反映

各パラメータは、年齢および性別により変化します。

もぐら一標準では、多動性の評価はできません。

多動性評価は、画像オプションにより動きの差分を定量化することで可能です。

7. データ集計

正常値を集計して、正常値範囲を求めることが最終目的です。

そのための、各年齢ごとに男女100人を第一段階の目標数にします。

データを集める場合、個人情報保護のために、集計データの保存を特別に用意して、個人情報をファイル内に含めない形式のファイルで集計する予定です。

(別項 [個人情報](#)をマスクしたファイル保存を参考)

8. その他

メチルフェニデート等の薬剤は、最低12時間前までの服用を避けるようにしてください。

誘発電位(no-go電位)を計測する場合には、位置を移動させない1×1の設定で行うと眼球運動の影響が少なくなる可能性があります。

分割数と眼球運動の関係は未検証、2×2でも測定は可能ですが、その場合には、モニタとの距離をとって目が追わないような対策をとってください。

参考資料 個人情報マスクしたデータ保存

検査結果を、研究用に外部に持ち出す場合、個人情報を省いたデータ形式で保存したファイルを作成することができます。

保存される場所は、**ADHDTEST¥MASKDATA** のフォルダー内に、施設名とユーザー番号、西暦、検査日時をファイル名として作成されます。

ADHDTEST¥MASKDATA¥NoruPro100-2005-12081409.ADH

マスクされる個人情報は、被験者情報の
ID、名前、かな、生年月日
検査依頼科、依頼医師名、検査実施者、判読医師名
が該当します。

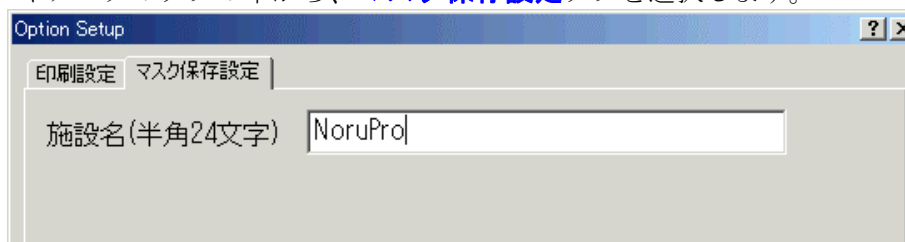
該当する項目は、保存されないと同時に、この形式で保存したファイルを読み出した場合には設定・変更ができなくなります。

**この機能は、読み出した ADH データのみ有効です。
検査直後のデータでは、この機能は使えません。一度保存してから読み出してください。**

[準備]

施設名を予め設定しておきます。（デフォルトはユーザー名）

1. **設定(S)**メニューの**オプション設定(O)..**を選択します。
2. ダイアログのタブの中から、**マスク保存設定**タブを選択します。



施設名

施設名を最大 24 文字（半角）で入力します。

3. **OK**ボタンで設定を確定させます。

[個人情報をマスクして保存]

1. **ファイル**メニューの**個人情報をマスクして保存(M)..**を選択します。
2. ファイル名を自動生成して、ファイルを **MASKDATA** フォルダーに作成します。